

第3章

長文読解(解き方編2)「時間内に解けるかな？」

前回までの復習は順調ですか？ 少しずつでも確実に身につけていきましょう。
さて、皆さんはテストが終わった後、ため息まじりにこう思うことはありませんか？

「あーあ、時間がもう少しあったら全部解けたのに。」とか、
「あの問題、できたはずなのに時間がなくて。」など。

厳しい中学受験において、時間が足りなくなるのはよくあることですが、せっかく実力があるのに時間がネックになって得点できないのでは、悔やんでも悔やみきれませんね。非常にもったいない話です。
そうかといって、スピードだけを重視して解くと、答えが雑になります。

「国語の落とし穴」 問題を解く

- A 慎重に解く ➡ 正答率は高くなるが、時間が足りなくなる。
- B スピーディに解く ➡ 時間内に解けるが、正答率が(雑な分)低くなる。

ABどちらもダメ！ ➡ ではどうすればいいのでしょうか？

解決方法

前もって時間配分を決め、それを厳守する。つまり「計画的に解く」ことが大切です。では、それぞれの問題を、どのくらいの時間で解けばいいのでしょうか？
以下の図を参考にしてください。

種類	制限時間
漢字・語句	1問10秒程度
選択問題	1問1分以内
書き抜き問題	1問2分以内
記述問題	1問5分以内

★左記は過去の入試問題の試験時間と問題数、またそれぞれの出題割合から算出したベストの時間配分です。

「時間配分は理解できても、なかなか理想通りにはいかないよ。」と思う方もいるかもしれませんが、これらを意識して解くのと、そうではないのとではおのずと結果が違ってくるはず。まずはこの通りに実践してください。そして数多くの問題を解くことで「頭と身体を慣らしていく」ことが肝心です。

★「中学入試は読解能力が問われるのではなく、それをいかすためのスピードが必要である。」という現実を受け止めましょう。

では、具体的にどうすればよいのか？ 個別に対策を考えます。

漢字・語句

この両者は「できるかできないか」つまり「書くか飛ばすか」のみで「考える」という作業はありません。「考える」行為を省くために前もってしっかり記憶しておくことが大切です。

選択問題

まず、傍線前後十行以内から解答もしくはヒントを探す。次に探したもののなかからテーマに近いものを優先して選ぶ。(同時に明らかに文章の内容とずれたものは消去しておく) この作業を1分以内に完了させる。

書き抜き問題

傍線前後十行以内から傍線もしくは「問題文の内容と似たもの」を探す。2分以内にこの作業ができなければ飛ばして次の問題に進む。「書き抜き問題」でこわいのほとんど問題に執着しすぎ、他の問題が解けなくなる。見極めが必要です。

選択問題

前もって要点を付けた部分から、解答に使えるものをしぼりこむこと。記述の空欄は中学入試においては「致命的」ですので、必ず書くようにする。(5分以内で)

★それぞれの解答方法の詳細は、次回以降順にお話していきます。

ここで大切なことは「出会った問題から解く」ことです。始めに文章全体を読むことは、それ自体大きな時間のロスとなります。(どうしても読み通したい人は、2分以内に大雑把に目を通しておく程度にしておいてください。)

では実践に移りましょう。

■ 問題

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

- ① 経済がいちじるしく成長した20世紀後半に、日本の社会は大きく変化しました。都市への人口集中、とくに若者の集中、核家族化^{かくかぞく}の進行、労働時間短縮による余暇^{よか}の拡大などといった社会現象が、テレビ、新聞などのマスコミをにぎわしています。ここではこれらの社会現象を、ごみという側面から考えてみましょう。
- ② 日本社会の核家族化は、高度経済成長とともに進行してきましたが、ついに1988年には家族の平均人数が3.0人となりました。その後もこの数字はいつそう減少する傾向^{けいこう}にあります。また一人暮らしの人も増えています。これらのことがじつは、ごみが増える一つの原因となっているのです。
- ③ 家庭ごみの計量調査でわかったことは、一人一日あたりのごみの量は、その家族の人数が少ないほど多くなる傾向がみられるということです。これはたとえば、新聞のように、家庭単位で必要なものがあるためです。一つの新聞を、一方では四人が見るのに対して、一人で見ないという「やむをえないむだ」をしているわけです。
- ④ 日本は世界の中でもきわめて安全な社会だといわれています。国民一人あたりの犯罪発生率も低いですし、ふだんスリや置き引きの心配をせずに生活できます。ハンドバッグをいすにかけたり、カバンを電車の網棚^{あみだな}にのせたり、わきに置いたまま電話をかけたりといったことはあたりまえになっています。こうしたことができるのはもちろんたいへんいいことなのですが、ごみの視点で見たときに、この安全度の高さが困った問題の原因となっていることがあります。
- ⑤ それは自動販売機の普及^{はんぱいき}です。安全な社会でなければ自動販売機をだれも監視^{かんし}していない所に置いておくことはできません。日本では、ジュースなどの清涼飲料^{せいりょう}からはじまって、酒、たばこ、週刊誌から乾電池^{かんてんち}にいたるまで、自動販売機はいたるところに見られます。普及台数は全国で六百万台近く、国民20人あたり一台の割合になります。これが安全についての日本の特殊事情^{とくしゅ}によることはいうまでもありません。
- ⑥ ところが問題もあります。自動販売機はいつでも気軽に買えるために、清涼飲料の消費が大きくのび、その結果ごみも増えることとなりました。また、屋外で飲まれることが多いため、容器がどうしても散乱することになります。道路わきや海岸、公園などに散乱する空き缶^{かん}やペットボトルは、ごみ問題の一つの象徴^{しょうちゆう}的存在です。道徳心にうったえることも大切ですが、野放しの自動販売機にも一考の余地がありそうです。

問1 ____1「ごみの視点で見たときに、この安全度の高さが困った問題の原因となっていることがあります」とありますが、それはどのような問題ですか。

解く手順

- 1 17行目に傍線1があります。これが出会った最初の問題ですね。1行目から17行目までのスピーディに読んでから傍線1を解く方法もありますが、最初から傍線1に注目し、前後10行から答えのヒントを探し出す方法があります。(個人的には前述した通り、後者の方法を選択します。)
- 2 次に問題文を読みます。最終行に「…どのような問題ですか」ときいているので、「—問題。」で解答をしめくります。(前回の「鉄則②」参考)
- 3 次に枠をつくり、解答をそこにあてはめるようにします。

鉄則⑤ 記述のときは、的はずれな答えを書かないようにするため、問題文できかれた通りに枠をつくる。

すると以下の形になります。

ごみの視点で見たときに、この安全度の高さが

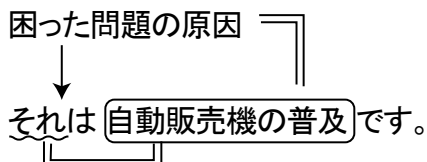


の原因となっている。

問題文で使われている部分を
枠の前後に配置させる。

★こうしておけば、問題文で
きかれた通りに答えられる。

- 4 さあ、いよいよ書く時間です。5分以内に終了できるかな? 「鉄則④」で習った通り、重要語句(今回は「問題」)を文中から探し○で囲みます。すると、24、27行目に一つずつ見つかります。
- 5 次に傍線の直後に「それは」と書かれてあります。「鉄則③」で習った通り、主語が指示語になっている時は、何を指しているのか明らかにします。
すると



という構図が完成します。

- 6 最後に4でチェックした「問題」のある部分を見てみましょう。2ヶ所に○をつけましたが、その「問題」とはごみの増加とごみの散乱であることがわかりました。

7 さて5、6をまとめて答えを書きましょう。

わかったこと…

安全度が高い → 自動販売機が普及する → 清涼飲料の消費が増える →
困^{!!}った問題の原因

ごみが増加し、ごみの散乱を招く。
「問題」

(解答)ごみの視点で見たときに、この安全度の高さが

自動販売機の普及を拡大させ、その結果、清涼飲料水の消費が増え、それとともにごみも増加し、散乱を招いてしまったという
問題。

の原因となっている。

★制限時間5分

いかがでしょうか？ 時間内に解けましたか。解けなくてもあとは慣れていくことで、少しずつ上達してくださいね。

今回は「鉄則⑤」も加わりましたので、しっかり復習してください。

では、次回まで。(次回は第4章「書き抜きて難しい?」です。)

今回のおさらい

1. 時間配分に注意しましょう。
2. 鉄則⑤を覚えましょう。